地域の芸術・文化の拠点施設　美幌町民会館大ホール「びほーる」の魅力をお伝えします！

☆「びほーる」は、町民会館大ホールの愛称です☆

～「びほーる」の名前の由来～

びほーるの愛称については町内はもとより道内外、遠くはドイツからの応募も含め２７６点の愛称が寄せられました。お寄せいただきました愛称につきましては、中学生・高校生を含めた「愛称審査委員会」で審査を行いました。その結果、札幌市在住の 森 将樹 様に応募していただきました愛称「びほーる」が採用されました。

森様が「びほーる」に込めた想いは以下のとおりです。

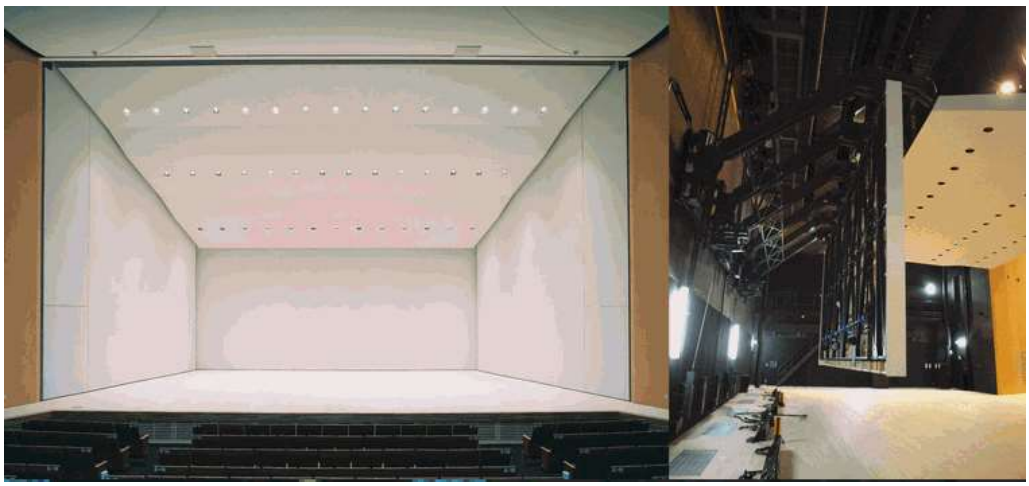
【愛称応募用紙より抜粋】

今回考えた、美幌町民会館第１ホールの愛称「びほーる」は英語表記だと【 be hall 】となります。英語でbe動詞は様々な使われ方をします。様々な主語（I・He・She、etc）と共に使われ、その主語に合わせ変化していく。美幌町民会館もbe動詞のように色々な人が集い、ただのホールではなく日々変化し、常に新しいものに進化していき、美幌町民会館から新しいものを発信できる会館になってほしいと思い、「びほーる」という愛称にしました。

舞　台

舞台幅１６ｍ(８間間口)・高さ９ｍ・奥行１４ｍで、両側にある舞台袖スペースを合わせると、オホーツク管内最大の広さとなっており、床材は木曽産の総檜張りです。舞台は、客席から見ると額縁のように見える「プロセニアム型」（左写真）となっており、その上部は可動式となっています。

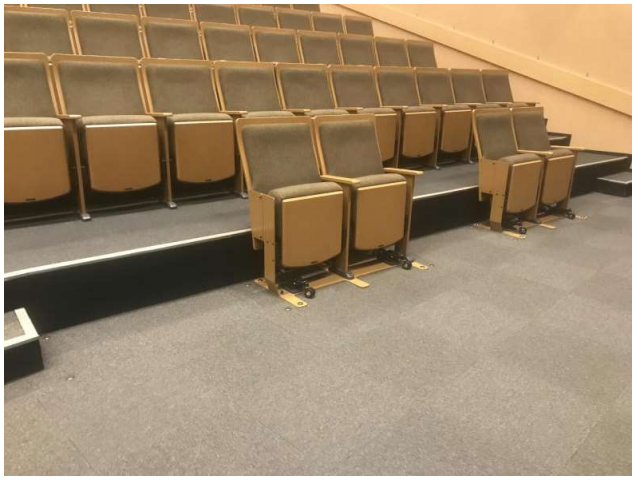
また、舞台上のバトン・サスペンション等は全て電動式となっており、操作者が安全かつスムーズに作業ができるように配慮されています。



音響反射板は、他ホールでは未使用時には天井につるしてあるのが一般的ですが、びほーるでは道内初となる「アーム式」を導入し、天板と正板を舞台奥に収納しています。このことにより、未使用時の安全性を高め、バトンやサスペンションのスペースを確保するなど、画期的なシステムになっています。

びほーるの象徴ともなる舞台は、演劇・コンサート・講演会等あらゆる用途に対応できるよう作られています。

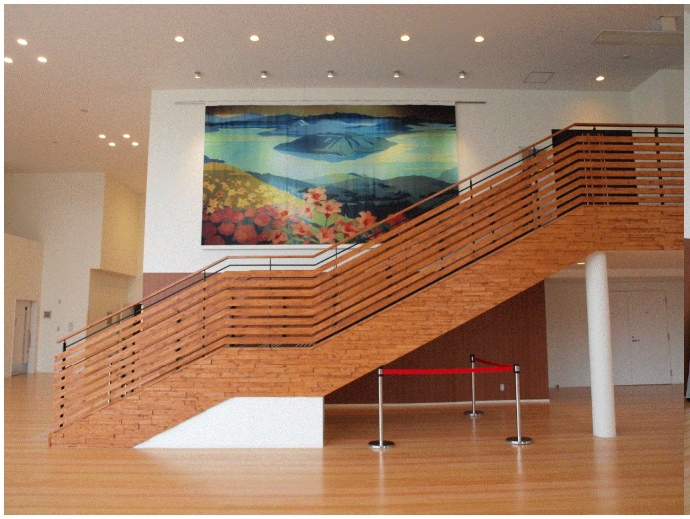
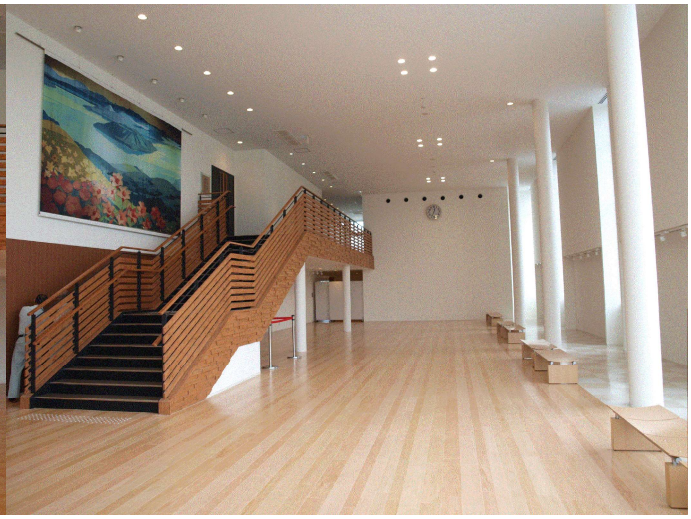
客席スペース



ご来場の皆様に快適にご鑑賞いただけるよう、幅５２ｃｍ・座席間隔１ｍと、管内で最もゆとりのある座席となっております。客席数は４９９席（車いす席５席分は一部座席を取り外すことで確保可能）、小さなお子さんがいても安して鑑賞できるよう親子席５席（防音ガラス張り　右写真）も用意し、合計５０４席を用意いたしました。また、中央列を千鳥配置することにより見やすさに配慮いたしました。

びほーるの客席は、長時間でも快適に過ごせるように作られています。

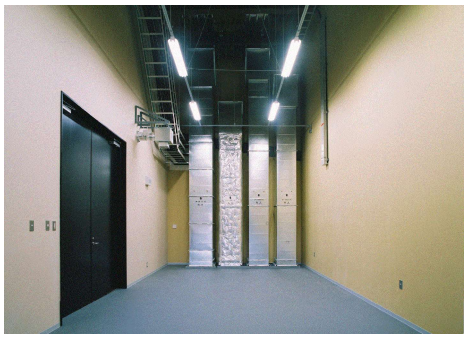
ギャラリー・バックスペース等

正面玄関から右に進み、びほーるギャラリーに入ると、左側には美幌峠のタペストリーが掲げられています（左写真）。このデザインは、旧第１ホールで使用していた緞帳（レプリカ）です。

また、ギャラリー右側の壁には展示スペースを準備し（右写真）、絵画や書道、写真などの作品展示を可能としています。

びほーるは入口から文化を感じていただくことができるようになっています。



この他、舞台裏には１１ｔトラックが入る屋外型搬入口(右写真)、舞台セットの製作や組立ができる大道具庫(左写真)、デジタル対応の音響卓・照明卓をはじめとした機器(下写真)、温度・湿度が一定に保たれているピアノ庫など、舞台を支える設備が充実しています。

また、全館ユニバーサルデザイン設計により、全ての方が使いやすい施設となっているほか、駐車場を広げ、障がい者用を含めて１２１台の駐車スペースを確保しています。

「びほーる」は、たくさんの知恵と工夫により、皆様によりよい文化を発信いたします。